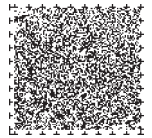


第43号

m o i

モイ!



● 今号のトピック ●

■ 障害者差別解消法をご存知ですか？

障害を理由とする差別の解消を推進に関する法律です。本法のポイントや Q&A を掲載しています。

2・3 ページ

■ スマイルインタビュー

今回は、センター祭実行委員長、山田隆司さんにお話を伺いました。

4 ページ

■ 笑顔はじけるセンター祭報告



笑顔はじけるセンター祭

平成 27 年 10 月 25 日 本年度のセンター祭が無事終了いたしました。

皆様のご支援もあり、本祭は今年で 31 回目。

当日はお天気にも恵まれ、今年も皆様のはじけるような笑顔をたくさん見ることができました！



↑ 吉住区長挨拶



↑ 力作揃いの作品展



↑ 模擬店 & バザー 今年也大盛況。出展数も増え、にぎやかでした。



↑ 作業体験の様子



↑ イベント会場。カラオケ・ダンスと盛り上がりしました。

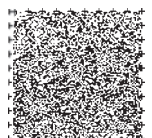


↑ フィナーレはお神輿と阿波踊り

♪ 正面玄関のアーチは「高次脳機能障害者グループ 竹とんぼ」が作成しました ♪

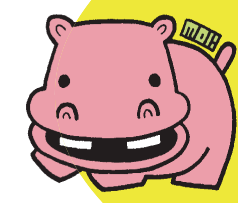


全員で「虹」を描き、竹とんぼメンバーのいそこさんの招き猫イラストと小林さんの題字を載せて完成です。竹とんぼのみなさん集合！（左写真）



※ 今回のセンター祭の実行委員長、山田隆司さんのインタビューを 4 ページ目に掲載しています。是非ご覧下さい。

障害を理由とする差別の解消の
推進に関する法律



障害者差別 解消法

をご存知
ですか？

・障害者差別解消法とは

この法律は、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本的な事項や、国の行政機関、地方公共団体等及び民間事業者における障害を理由とする差別を解消するための措置などについて定めることにより、すべての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現につなげることを目的としています。

・概要

- この法律では、主に次のことを定めています。
- ① 国の行政機関や地方公共団体及び民間事業者による「障害を理由とする差別」を禁止すること。
 - ② 差別を解消するための取り組みについて政府全体の方針を示す「基

本方針」を作成すること。

- ③ 行政機関等ごと、分野ごとに障害を理由とする差別の具体的内容等を示す「対応要領」・「対応指針」を作成すること。

▼また、相談及び紛争の防止等のための体制の整備、啓発活動等の障害を理由とする差別を解消するための支援措置について定めています。

・障害を理由とする差別とは

障害を理由として、正当な理由なく、サービスの提供を拒否したり、制限したり、条件を付けたりするような行為を言います。また、障害のある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合には、負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁を取り除くために必要で合理的な配慮を行うことが求められます。こうした配慮を行わないことで、障害のある方の権利利益が侵害される場合も、差別に当たります。

●障害を理由とする

不当な差別的取り扱いの例

障害を理由として、サービスの提供や入店を拒否してはいけません。

●合理的配慮の例

筆談や読み上げなど、ちょっとした配慮で助かる人がいます。



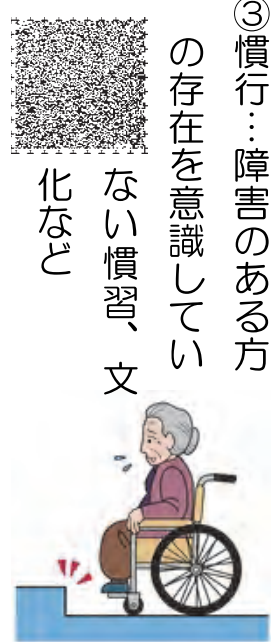
・社会的障壁とは

障害のある方にとって、日常生活や社会生活を送るうえで障壁となるようなものを指します。

- ① 社会における事物：通行、利用しにくい施設、設備など

- ② 制度：利用しにくい制度など

- ③ 慣行：障害のある方の存在を意識していない慣習、文化など



- ④ 観念：障害のある方への偏見などがあげられます。

・本法のポイント

「不当な差別的取扱い」と「合理的配慮の不提供」が禁止されます。

	国の行政機関・地方公共団体等	民間事業者（個人業者、NPO等の非営利業者含む）
不当な差別的取扱い	禁止 不当な差別が禁止されます。	禁止 不当な差別が禁止されます。
障害者への合理的配慮	法的義務 障害者に対し、合理的配慮を行わなければなりません。	努力義務 障害者に対し、合理的配慮を行うよう努めなければなりません。

・障害者差別解消法 Q & A

Q 「合理的配慮」の具体的な例を教えてください。

A どのような配慮が合理的配慮に当たるかは個別のケースで異なります。典型的な例としては、車いすの方が乗り物に乗る時に手助けをすることや、窓口で障害のある方の障害の特性に応じたコミュニケーション手段（筆談、読み上げなど）で対応することなどが挙げられます。

Q 日常生活の中で個人的に障害のある方と接するような場合も、この法律の対象になるのですか。また、個人の思想や言論も規制されるのでしょうか？

A 個人的な関係や、思想、言論といったものは対象にはしていません。

出典：障害を理由とする差別の
解消の推進に関する法律
障害者差別解消法が
制定されました（内閣府発行）



センターを積極的にご利用されている方へのインタビューシリーズ4回目です。今回は自主サークル（パソコン倶楽部、写楽）の他、センター祭実行委員長として、またパソコン講座のサポーターとして皆さんよくご存知の山田隆司さんにお話を伺いました。ご覧ください。

MOI

山田 隆司さん

「センターを積極的にご利用されている方」というテーマで取材させて頂いています。センターを利用し始めたのはどんなきっかけでいつ頃ですか？

山田さん
(以下山田)

利用し始めたのは8年くらい前。当時はカメラマンで、正月明け仕事に行こうとしたら身体の左側が動かない。「もしかしたら頭か」と思って自分で救急車を呼んだんだ。先生に運が良かったと言われたね。そしてリハビリ病院に移って、毎日泣きながら必死にリハビリ。その後、都心障から紹介されて、センターの機能回復訓練室でリハビリを受けるようになったんだ。半年くらい経って、理学療法士さんに、パソコン講座やパソコン倶楽部（サークル）を紹介してもらったの。センターに来て初めてパソコンに触ったんだよね。それまではインターネットもやったことなかったんだ。

MOI そうだったんですか！今はかなりの腕前ですよ。

山田

上達したのは、サポーターをやったのが大きいかなあ。生徒さんに質問されて答えられないと困るから、家でもやるようになったしね。パソコン倶楽部に入った頃は2時間座っているのも身体が辛くてね。それもリハビリだったね（笑）

MOI

センター祭について、最初はどのような形で参加されていたのですか？

山田

最初は理学療法士さんに「センター祭っていうのがあるから来て」と言われて、お客さんとして楽しんだ（笑）。次の年、パソコン倶楽部の実行委員になったんだ。一番若かったし他の方は別サークルの実行委員だったりしていたから、自分しかなくて。実行委員になった当初は何も分からずおとなしくしてたよ（笑）

MOI

その後、ポスターの図案や写真撮影、実行委員長就任など積極的にセンター祭運営に関わっておられますよね。それは何かきっかけがあったのですか？

山田

3年目、センター祭担当の職員に「ポスターの写真撮ってみませんか」と言われて。当時は、片手しか使えないし足も痙攣があつて「ブレるし片手で写真はムリ」と思っていたんだよね。でもブレないようにシャッター速度を早くしたり、自分で考えて工夫して設定したら、撮れたんだよ！上手く、ピンボケにもならないでね。それで自分でも出来るんだと思って。職員に背中を押してもらって感謝してる。もともおだてられると木に登るタイプだから（笑）。それがきっかけかな。

MOI

すごいなーと思って勇気付けられた。自分それはセンターにある作業所の利用者さんだったんだよね。で、そういう人達に喜んでもらえるようなことは出来ないかなと思ってね。自分が出るのは仕事でも趣味でもある写真かなと。

山田

ポスター撮影会は少ない設備の中で行っていますが苦労されている点は？

MOI

知的も身体も、色々な障害の人がいるからね。まず光は当てちゃいけないと。パニックになる場合もあるし、急に光当てられると目にもよくないしね。それにフラッシュを当てられると緊張しちゃうんだよね。だから蛍光灯の光だけでやっている。でも暗いと、早いシャッター速度が落ちないからブレやすいんだよ。カメラの感度を上げたり、後処理も大変。でも皆、写真を見て「カメラがよくなったんだね」って言うんだよね（笑）

山田

今回撮影会に参加された方々にワードで作った記念品をお配りしましたね。

落合先生（PC講座）に教えて頂いたことを活かしたくて。その場限りで分かったと思ってもすぐ忘れちゃうじゃない。せっかく先生が噛み砕くように教えて下さっているでしょ。「与えられた条件の中でベストを尽くす」それが基本。仕事のときもそうだった。

MOI

最後に、メッセージはありますか。

「人を否定せず、お互い尊重しあって共存共栄」そうしないと、障害のある無し関わらず私たちに未来はないって思っている。損得で考えてはだめ。お互い感謝の気持ちを忘れちゃいけないと思う。職員と利用者は50・50の関係じゃなきゃと思うんだ。軍事力よりも外交だよ（笑）。歩み寄りが大事。みんなが優しい気持ちでいたら、物事って何でも良いほうに向かっていくよ。

取材を終えて

絶望的な気持ちでセンターに来て、利用者の笑顔に勇気付けられたという山田さん。今は山田さんの大活躍をみて勇気付けられている方も大勢いるのではないのでしょうか。職員に対しても常に思いやりある言葉をかけてくださる山田さんですが、いつも何か自分が役に立てる事はないかと思っているそうです。「失敗を恐れてはダメ、向上心と好奇心を持たなければ」ともおっしゃっていました。今後の更なる活躍を期待しています！